

- 問1 北海道に古くから居住し、自然を敬う独自の文化や独自の言語を持っている先住民族を何と呼びますか。最も適切な名称を選択してください。
(2026年 愛知県公立入試 類似)
1. アイヌ民族 2. スラブ民族 3. ラテン民族 4. モンゴル民族
- 問2 北海道のオホーツク海沿岸で見られる流氷について、その発生と移動の背景を説明した文として最も適切なものはどれですか。
(2026年 愛知県公立入試 類似)
1. 北極海から流れ出した巨大な氷の塊が、親潮（千島海流）に乗って南下し、北海道の太平洋側に接岸する。
2. 日本海側の対馬海流が強い寒気で冷やされることで氷が発生し、北西の季節風によって北海道の北部に押し寄せられる。
3. アラスカ沿岸で発達した流氷が、偏西風の影響を受けて東から西へと移動し、北海道の知床半島周辺に漂着する。
4. シベリアからの強い寒気によって凍った海水が、風や海流の影響を受けて南下し、北海道の沿岸に到達する。
- 問3 北海道中央部を流れる石狩川の中流から下流域にかけて、かつて広く分布していた土地の名称を答えてください。この土地は、寒冷な気候により枯れた植物が十分に分解されないまま積み重なったもので、水分が非常に多く栄養分に乏しいという特徴があります。
(2025年 千葉県公立入試 類似)
1. 泥炭地 2. 台地 3. 盆地 4. 三角州
- 問4 世界遺産に登録されている知床では、多くの観光客が訪れる一方で、自然環境を破壊しないための対策が取られています。湿原や高山植物が広がるエリアに「木道」が設置されている主な目的として、最も適切な説明はどれですか。
(2021年 千葉県公立入試 類似)
1. 周辺の森林から切り出された木材の輸送を効率化し、地元の林業を活性化させるため
2. ヒグマなどの野生動物が、人間の歩行ルートに侵入できないように物理的に遮断するため
3. 観光客が地面を直接踏み固めて、貴重な植物の成長を妨げないようにするため
4. 大雨が降った際に地面の侵食を防ぎ、土砂が海へ流出するのを食い止めるため
- 問5 北海道の石狩平野における大正時代から現代にかけての地形の変化について、統計や地図上の情報を文章で説明した次の記述のうち、正しいものはどれですか。
(2021年 神奈川県公立入試 類似)
1. 海岸付近の流路をあえて蛇行させることで砂浜の浸食を防ぎ、現在は広大な塩田として利用されている。
2. 山間部の流路を直線化したことで大規模な扇状地が形成され、現在は一面の畑地となっている。
3. 蛇行していた河川が直線的に改修され、それに伴い扇状の道路が整備され、橋の数も増加した。
4. 河川を完全に埋め立てて住宅地としたため、現在は鉄道を中心とした放射状の道路網が広がっている。
- 問6 日本の都道府県別の統計において、北海道の耕地面積は全国の約25%という広大な面積を占めていますが、農業産出額の全国シェアは約13.5%となっています。この数値の比較から読み取れる、北海道の農業の特徴として適切なものはどれですか。
(2021年 兵庫県公立入試 類似)
1. 耕地面積の割合よりも、農業産出額の全国シェアの方が高くなっている
2. 耕地面積は非常に広いが、農業産出額の合計は全国の都道府県の中で最も低い水準にある
3. 広大な耕地面積を有しているが、面積の割合に比べると農業産出額の割合は低くなっている
4. 耕地面積と農業産出額のどちらも、全国の約半分以上を占める圧倒的な規模である
- 問7 北海道の内陸部における気温や降水の特徴を説明した内容として、正しいものはどれですか。
(2025年 沖縄県公立入試 類似)
1. 暖流である対馬海流の影響を強く受けるため、冬でも比較的温暖であり、雪が降ることは稀である。
2. 海の影響を受けにくいため、夏と冬の気温差（年较差）が非常に大きく、冬の月平均気温は氷点下になる。
3. 一年を通じて降水量が多く、特に夏から秋にかけては台風の影響を頻繁に受けるため、年平均気温が高い。
4. 季節風の影響で冬に降水量（降雪量）が集中するが、海に囲まれているため一年を通じて気温の変化は小さい。
- 問8 世界自然遺産である知床半島を含む北海道の東部沿岸では、夏季に「海霧」と呼ばれる濃い霧が発生しやすい。この現象の要因となる「季節風」と「海流（親潮）」の関係を説明したものとして、最も適切なものはどれか。
(2017年 愛知県公立入試 類似)
1. 南からの暖かく湿った季節風が、対馬海流の影響で温度が上昇し、空気中の水蒸気量が飽和状態に達するため。
2. 大陸からの冷たく乾いた季節風が、暖流である黒潮によって温められた海面から大量の水蒸気を供給するため。
3. オホーツク海からの冷たい季節風が、親潮の影響で冷え切った陸地にぶつかり、上昇気流が発生して雲を作るため。
4. 太平洋からの暖かく湿った季節風が、寒流である親潮によって冷やされた海面の上を通ることで水蒸気が凝結するため。
- 問9 北海道の太平洋側に位置する苫小牧市の気候の特徴について、年間を通じた気温と降水量の傾向を説明したものとして最も適切なものはどれですか。
(2023年 長野県公立入試 類似)
1. 年平均気温が15度を超え、年間を通じて温暖であるが、梅雨の影響を受けにくいので、夏よりも冬の降水量が極端に多くなる。
2. 日本の典型的な日本海側の気候を示し、冬は北西の季節風の影響で雪が多くなるため、夏よりも冬の降水量が大幅に上回る。
3. 年平均気温が8度前後で、夏（7・8月）の平均気温が20度程度と冷涼であり、冬の降水量は日本海側の都市と比較して非常に少ない。
4. 内陸部に位置するため夏と冬の寒暖差が激しく、夏は30度を超える日が多い一方で、年間降水量は1000mmに満たない。
- 問10 北海道の釧路市周辺では、夏の時期に「海霧」と呼ばれる濃霧が発生し、日照時間が短くなるという気候上の特徴が見られます。このような現象が起こる背景として、地形や海流の影響を説明したものとして最も適切なものを次の中から選びなさい。
(2021年 茨城県公立入試 類似)
1. 南東からの湿った季節風が、寒流である千島海流（親潮）の上を通る際に冷やされるため。
2. 北西からの乾燥した季節風が、暖流である日本海流（黒潮）の影響で湿気を帯びるため。
3. 熱帯低気圧から変わった温帯低気圧が、太平洋沿岸の暖流によって勢力を強めるため。
4. オホーツク海高気圧から吹き出す冷涼な風が、大雪山系を越える際に上昇気流を作るため。
- 問11 北海道の石狩平野では、かつて稲作に適さない水分を多く含んだ泥炭地が広がっていました。この土地を農地に変えるために、他の場所から性質の異なる土を運び入れ、もとの土と混ぜ合わせて土壌を改良する方法が行われました。この技術の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。
(2024年 福島県公立入試 類似)
1. 客土 2. 輪作 3. 干拓 4. 開拓
- 問12 明治時代に行われた北海道の開拓の背景と特徴について述べた次の文のうち、正しいものはどれですか。
(2021年 神奈川県公立入試 類似)
1. アイヌの人々の独自の文化や土地利用の権利を保護することを最優先に開発が進められた。
2. 広大な森林を維持するため、農業は一切行わずに毛皮の採取と輸出のみを推奨した。
3. 政府は開拓使を設置し、屯田兵による北方の防衛と大規模な土地改良を並行して進めた。
4. 九州地方の沿岸警備を目的として配置された防人が、大規模な志願制度によって北海道へ移された。
- 問13 北海道の太平洋側において、夏に濃霧が発生し、気温が相対的に低くなる主な要因として最も適切なものはどれですか。
(2026年 岩手県公立入試 類似)
1. 北東からの寒流の上空を湿った夏の季節風が吹き抜けるため
2. 北東からの暖流の上空を湿った夏の偏西風が吹き抜けるため
3. 南西からの寒流の上空を乾燥した冬の偏西風が吹き抜けるため
4. 南西からの暖流の上空を乾燥した冬の季節風が吹き抜けるため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 アイヌ民族	北海道には本州とは異なる歴史があり、古来より独自の言語や文化を育んできた人々が暮らししてきました。現代では、彼らの権利を尊重し、伝統を次世代へ継承するための取り組みが地理的・歴史的観点から重視されています。
問2	答え 4 シベリアからの強い寒気によって凍った海水が、風や海流の影響を受けて南下し、北海道の沿岸に到達する。	流水の形成には、シベリア大陸から吹き付ける非常に冷たい空気が不可欠です。この寒気によってオホーツク海の塩分濃度が低い表面層が凍り、それが北西の季節風や海流によって南へ運ばれることで、北海道の北東沿岸にたどり着くという仕組みになっています。
問3	答え 1 泥炭地	石狩川流域の低地には、植物の遺体が長年かけて堆積してできた泥炭地が広がっていました。泥炭地はスポンジのように水分を多く含み、農作物の栽培には適さない不毛の地とされていましたが、明治時代以降の開拓において重要な開発対象となりました。
問4	答え 3 観光客が地面を直接踏み固めて、貴重な植物の成長を妨げないようにするため	知床のような貴重な自然環境では、観光客が自由に歩き回ると足元の植物が踏み荒らされたり、土壌が踏み固められて植物が育たなくなったりする「踏みつけ」の被害が発生します。木道を設置することで観光客の動線を限定し、環境保護と観光利用の両立（エコツーリズム）を図っています。
問5	答え 3 蛇行していた河川が直線的に改修され、それに伴い碁盤目状の道路が整備され、橋の数も増加した。	大正時代などの古い地図に見られる石狩平野は、河川が激しく蛇行し、土地の多くが湿地で橋も少ない状態でした。しかし、現代の状況を示す資料では、治水工事によって流路が直線的に整えられています。これに合わせて、開拓を効率的に進めるために土地が碁盤目状に区画整理され、道路網の整備とともに、分断されていた地域を繋ぐ数多くの橋が架けられるなど、土地利用が高度化しました。
問6	答え 3 広大な耕地面積を有しているが、面積の割合に比べると農業産出額の割合は低くなっている	北海道の耕地面積は約1,147千haであり、全国の約4,496千haに対して約4分の1（25%）を占めています。一方で、農業産出額は約1,185十億円であり、全国の約8,798十億円に対して占める割合（シェア）は約13.5%にとどまります。このことから、北海道の農業は一戸あたりの経営規模が非常に大きいものの、単位面積あたりの収益性が高い施設園芸農業（ビニールハウス栽培）などが盛んな都市近郊の地域などと比べると、面積シェアに対する産出額シェアは低くなる傾向にあります。
問7	答え 2 海の影響を受けにくいため、夏と冬の気温差（年較差）が非常に大きく、冬の月平均気温は氷点下になる。	海には温度を一定に保つ働きがありますが、北海道の内陸部は海から遠ざかっているため、その恩恵を十分に受けられません。結果として、夏は暑く冬は厳しい寒さとなり、年平均気温が低い北海道の中でも特に冬の寒冷さが際立つ傾向にあります。台風の影響や多雨な気候は、この地域の主な特徴とは言えません。
問8	答え 4 太平洋からの暖かく湿った季節風が、寒流である親潮によって冷やされた海面の上をすることで水蒸気が凝結するため。	北海道の東方沖には、北から流れてくる寒流の親潮（千島海流）が位置しています。夏、太平洋側から吹き込む暖かく湿った季節風が、この冷たい海面によって下から冷やされることで、空気中の水蒸気が細かい水滴（霧）となり、大規模な海霧が発生します。これが日照不足の原因となり、地域の農業に影響を与えることもあります。
問9	答え 3 年平均気温が8度前後で、夏（7・8月）の平均気温が20度程度と冷涼であり、冬の降水量は日本海側の都市と比較して非常に少ない。	苫小牧市は北海道の太平洋側に位置しており、寒流である千島海流（親潮）の影響を受けるため、夏でも平均気温が20度前後と冷涼な気候になることが大きな特徴です。また、冬は大陸からの湿った季節風が山脈によって遮られるため、金沢などの日本海側の都市に比べて降水量（降雪量）が非常に少なくなります。年間の降水量は1200mm程度であり、極端に乾燥しているわけではありませんが、冬の乾燥と夏の冷涼さが太平洋側の気候を象徴しています。
問10	答え 1 南東からの湿った季節風が、寒流である千島海流（親潮）の上を通る際に冷やされるため。	日本の夏には、太平洋高気圧から南東の季節風が吹き込みます。この季節風は海からの湿気を多く含んでいますが、北海道東部の沖合を流れる寒流（千島海流／親潮）によって下層から急激に冷やされます。冷やされた空気中の水蒸気が細かい水滴となることで濃霧が発生し、沿岸部に流れ込むため、釧路などの地域では日照時間が減少します。
問11	答え 1 客土	石狩平野などの低湿地には、枯れた植物が腐敗せずに堆積した「泥炭地」が多く分布しており、そのままでは水はけが悪く養分も乏しいため、稲作には向きませんでした。そこで、別の場所から肥沃な土や砂を運んでくる「客土（きゃくど）」という技術が大規模に行われました。これにより土壌の質が向上し、現在のような大規模な稲作地帯へと発展した歴史があります。選択肢にある「干拓」は海や湖を陸地にすること、「輪作」は同じ土地で異なる種類の作物を交互に栽培することを指します。
問12	答え 3 政府は開拓使を設置し、屯田兵による北方の防衛と大規模な土地改良を並行して進めた。	明治政府は、ロシアに対する防衛（国境の確定）と、資源の確保や失業した土族の救済を目的に北海道の開拓を急ぎました。開拓使が中心となって欧米の農業技術を導入し、屯田兵が厳しい自然環境の中で土地を切り拓いたことが、現在の北海道の農地基盤につながっています。
問13	答え 1 北東からの寒流の上空を湿った夏の季節風が吹き抜けるため	北海道の太平洋側では、夏に北東から流れる寒流（親潮）の上を冷やされた湿った季節風が吹いてくるため、気温が上がりにくく濃霧が発生しやすくなります。